



Peregrine | AssetCenter  
インストール

---



© Copyright 2002 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

この製品はApache Software Foundation ( <http://www.apache.org> ) により開発されたソフトウェアを含みます。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.1.0に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.  
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center  
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130  
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000  
Fax 858.481.1751  
[www.peregrine.com](http://www.peregrine.com)



# 目次

<b>はじめに (インストール)</b> . . . . .	5
本マニュアルの対象ユーザ . . . . .	5
本マニュアルの使用目的 . . . . .	5
AssetCenterデータの保全性に関する注意 . . . . .	6
「setup.pdf」ファイルについて . . . . .	7
<b>1. AssetCenterのコンポーネント</b> . . . . .	9
<b>2. サポートされる動作環境</b> . . . . .	13
サポートされるオペレーティングシステム . . . . .	13
Windowsでの必要最小限の動作環境 . . . . .	14
Windowsで推奨される動作環境 . . . . .	14
サポートされるDBMS . . . . .	15
<b>3. Windowsでのインストール</b> . . . . .	17
AssetCenterインストール前の注意事項 . . . . .	17
手動インストール (GUI) . . . . .	21
ネットワークインストール (GUI) . . . . .	23
自動インストール (コマンドライン) . . . . .	28
手動アンインストール (GUI) . . . . .	33

4. Windowsでの設定 . . . . .	35
Oracle DLL . . . . .	35
AssetCenter Import . . . . .	36
メッセージシステム . . . . .	36
AssetCenter Server . . . . .	38
Crystal Reports . . . . .	40
InfraTools Remote Controlを統合する . . . . .	40
Connect-Itを統合する . . . . .	41
リモートコンピュータのスキャン . . . . .	42
Knowlix . . . . .	42
5. 性能の最適化 . . . . .	43

# はじめに（インストール）

## 本マニュアルの対象ユーザ

本書はAssetCenterを使用する全企業を対象に書かれています。  
本書はAssetCenterをインストールするエンジニアを対象としています。

## 本マニュアルの使用目的

このマニュアルの内容は以下の通りです。

- AssetCenterを構成するプログラム
- AssetCenterの動作環境
- AssetCenterを初めてインストールする方法
- AssetCenterデータベースの作成方法
- AssetCenterの性能に影響を及ぼす要因

---

### 重要項目:

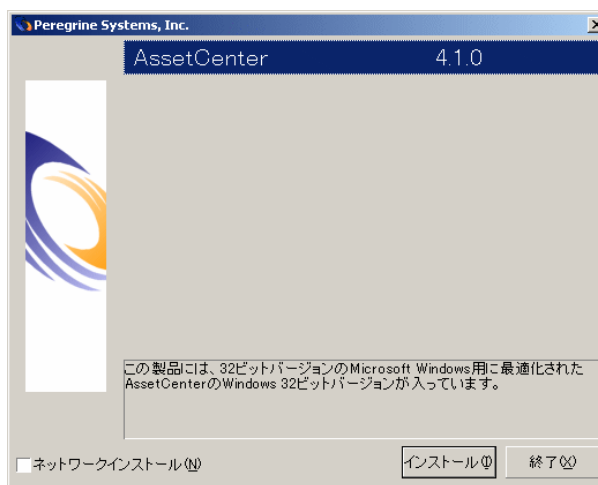
本書で説明されている手順には忠実に従ってください。

---

**注意:**

本マニュアルでは、旧バージョンのAssetCenterからバージョン4.1.0へ移行する方法は説明されていません。マイグレーションの詳細については、『**マイグレーション**』マニュアルを参照してください。

CD-ROMを挿入すると以下の画面が表示されます。



本書では、AssetCenterコンポーネントのインストール方法のみが説明されています。

他のプログラムのインストール方法については、各プログラムの付属マニュアルを参照してください。

## AssetCenterデータの保全性に関する注意

AssetCenterは多彩な機能を搭載しています。この多機能は、複雑な構造のデータベースを使用することにより実現されています。

- データベースには膨大な量のテーブル、フィールド、リンクとインデックスが含まれています。
- 一部の中間テーブルは、グラフィカルインタフェースには表示されません。
- 一部のリンク、フィールドとインデックスは、ソフトウェアにより自動的に作成、削除または変更されます。

- ユーザはテーブル、フィールド、リンクやインデックスを追加作成することができます。

データベースの健全性を保護しつつその**内容**を変更する場合、以下のアプリケーションの内の1つを使用する必要があります。

- AssetCenterデータベースへのアクセス用グラフィカルインタフェース
- AssetCenter API
- AssetCenter Import
- Get-Itソフトウェアに基づいたWebインタフェース
- Peregrine Systemsゲートウェイ
- Connect-It
- AssetCenter Server

データベースの健全性を保護しつつその**構造**を変更する場合、AssetCenter Database Administratorを使用する必要があります。

 **警告:**

データベースの内容や構造を、ソフトウェア用にあらかじめ用意された方法以外の手段で変更してはなりません。不適切な方法で変更すると、データベースが破損し、以下の問題が発生する可能性があります。

- データやリンクが勝手に削除または変更される
- 架空のリンクやレコードが作成される
- 重大なエラーメッセージが発生する

## 「setup.pdf」ファイルについて

AssetCenterインストール用CD-ROMでは、「setup.exe」ファイルの隣に「setup.pdf」があります。

「setup.pdf」はAdobe Acrobatファイルではありません。拡張子「.pdf」は、電子ソフトウェア配布（ESD：Electronic Software Distribution）で使用されるMicrosoftの規格です。





# 1 | AssetCenterのコンポーネント

## AssetCenterプログラム

プログラム名	プログラムのインタフェース	Windowsのサポート
AssetCenterデータベースへのアクセス用グラフィカルインタフェース（下記注意参照）	グラフィック	可
AssetCenter Export	グラフィック	可
	コマンドライン	可
AssetCenter Import	コマンドライン	可
AssetCenter Server	グラフィック	可
	コマンドライン	不可
AssetCenter Database Administrator	グラフィック	可

プログラム名	コマンドライン プログラムのインタフェース	可 Windowsのサポート
AssetCenter API	非グラフィック	可
InfraTools Desktop Discovery Scanner	非グラフィック	可
AssetCenter Web	グラフィック	Get-It 2.01の動作環境の表を参照。
AssetCenter Script Analyzer	グラフィック	可

### 注意:

AssetCenterデータベースへのアクセス用GUIでは、以下のモジュールにアクセスできません。

- 調達
- ポートフォリオ
- 契約
- ファイナンス
- バーコードによる棚卸
- 管理
- ケーブル
- 主要テーブル
- AssetCenter Import

モジュールへのアクセスの可否は、AssetCenter付属のライセンスファイル「license.cfg」の内容に応じて異なります。

## 周辺プログラム

以下のソフトウェアはAssetCenterに統合可能です。

- AssetCenter Mobile
- Connect-It
- Crystal Reports
- InfraTools Desktop Discovery
- InfraTools Remote Control
- Knowlix

- Automated Desktop Administration



## 2 | サポートされる動作環境

### サポートされるオペレーティングシステム

#### AssetCenterクライアントプログラム

AssetCenterクライアントプログラムは次のオペレーティングシステムをサポートします。

- Windows

サポートされるオペレーティングシステムを確認するには、Webサイト <http://support.peregrine.com> で動作環境の表を参照してください。

#### AssetCenterデータベースサーバ

サーバは、DBMSにサポートされている全オペレーティングシステムとハードウェアプラットフォーム上で機能します。

DBMSにサポートされているオペレーティングシステムとハードウェアプラットフォームのリストは、DBMSのマニュアルを参照してください。

## Windowsでの必要最小限の動作環境

### AssetCenter Database Administrator以外の全プログラム

環境	Windows 95、98とME	Windows NT 4、2000とXP
CPU	Pentium 120	Pentium 200
RAM	32 MB	96 MB
ディスク空き容量(*)	1 GB	1 GB

(\*) AssetCenterと共にインストールされるファイルが使用する容量は約200MBです(使用するデータベースを含みません)。

### AssetCenter Database Administrator

環境	Windows NT 4、2000とXP Professional Edition
CPU	Pentium III
RAM	AssetCenter Server用に128 MB
ディスク空き容量(*)	2 GB

(\*) AssetCenterと共にインストールされるファイルが使用する容量は約200MBです(使用するデータベースを含みません)。

## Windowsで推奨される動作環境

### AssetCenter Database Administrator以外の全プログラム

環境	Windows 95、98とME	Windows NT 4、2000とXP
CPU	Pentium II 400	Pentium III 500
RAM	96 MB	128 MB
ディスク空き容量(*)	20 GB	20 GB

(\*) AssetCenterと共にインストールされるファイルが使用する容量は約200MBです(使用するデータベースを含みません)。

## AssetCenter Database Administrator

環境	Windows NT 4、2000とXP Professional Edition
CPU	Pentium III 500
RAM	AssetCenter Server用に128 MB
ディスク空き容量(*)	540 MB
ネットワーク	DBMSサーバとの高速リンク(例えば Ethernet 100 Mbps)と最短待ち時間(<5 ms)

(\*) AssetCenterと共にインストールされるファイルが使用する容量は約200MBです(使用するデータベースを含みません)。

## サポートされるDBMS

AssetCenterデータベースでは、以下のDBMSがサポートされています。

- Microsoft SQL Server
- Oracle Workgroup Server
- Sybase Adaptive Server
- DB2 UDB
- スタンドアロン(独立型)モードのSybase SQL Anywhere 5.5.5.2817

 **注意:**

Sybase SQL Anywhereは、AssetCenterと共にインストールされたデモ用データベースでのみ使用されます。

サポートされるDBMSのバージョン(サーバ、クライアント、ネットワークプロトコル、ドライバ、など)を確認するには、Webサイト <http://support.peregrine.com>で動作環境の表を参照してください。

 **警告:**

動作環境の表に記載されているバージョンまたはサービスパック以外(以降も含む)のDBMSでAssetCenterを使用すると、正常に機能しない場合があります。





# 3 | Windowsでのインストール

本章ではAssetCenterを初めてインストールする方法を説明します。

## AssetCenterインストール前の注意事項

### アンチウイルスプログラムをオフにする

AssetCenterのインストール中にアンチウイルスプログラムを起動していると、レジストリへのアクセスが遮断されるため、AssetCenterソフトウェアのインストールプログラムが正常に機能しない場合があります。

このため、AssetCenterのインストール前にアンチウイルスプログラムを終了することをお奨めします。

### Oracleクライアント層のインストール

Oracleクライアント層（SQL\*NetまたはNet8）を不適切にインストールすると、アクセント記号のついた文字がAssetCenterでは適切に処理されない可能性があります。この問題は、例えばアクセント記号付きの文字を含むレコードの挿入時に発生します。このレコードを再選択すると、テキストは正常に表示されません。この問題を解決するには、SQL\*NetまたはNet 8の設定を確認してください。

## Crystal Reportsのインストールの有無

AssetCenterのインストールを実行する前に、Crystal Reportsランタイム（限定バージョン）をインストールする必要があるかどうか確認します。

### 注意:

Crystal Reportsランタイムのインストールは、AssetCenterのインストールプログラムと共に実行されます。

以下の情報を参考にして、Crystal Reportsランタイムをインストールする必要があるかどうか確認してください。

既にインストールした完全版Crystal Reportsのバージョン	実行する内容
5.0以下	Crystal Reports 7.0ランタイムをインストールします。
6.0	Crystal Reports 7.0ランタイムのインストールをお奨めします。
7.0以上	Crystal Reports 7.0ランタイムをインストールする必要はありません。

## Sybase SQL Anywhereランタイムのインストールの有無

AssetCenterのインストールを開始する前に、Sybase SQL Anywhereランタイムをインストールするべきかどうか確認します。

### 注意:

Sybase SQL Anywhereランタイムのインストールは、AssetCenterのインストールプログラムと共に実行されます。

デフォルトで、AssetCenterはスタンドアロン版（1台のマシンに1台のユーザ）でインストールされています。コンピュータにSybase SQL Anywhereがインストールされていないと、Sybase SQL Anywhereランタイム（限定バージョン）も以下のデータベースと共にインストールされます。

- デモ用データベース「am410.db」が、AssetCenterのインストール先フォルダのサブフォルダ「amdemo」にコピーされます。
- 空のデータベース「empty410.db」がAssetCenterのインストール先フォルダにコピーされます。

これらのデータベースへ接続するには、ユーザ名「itam」とパスワード「password」を使用します。

これらのデータベースには以下の特徴があります。

- AssetCenter付属のライセンスファイルを使うと起動できます。  
このファイルはソフトウェアの全部または一部へのアクセスを許可します。
- AssetCenterソフトウェアと同じコンピュータにインストールされなければなりません。
- クライアント/サーバモードでは機能しません。
- AssetCenter ServerとAssetCenter Database Administratorでアクセスできます。

本番用のデータベース用に別のDBMSを使用する場合は、デモ用データベースにアクセスする場合のみにSybase SQL Anywhereランタイムをインストールします。

コンピュータに完全バージョンのSybase SQL Anywhereがインストールされていない場合のみ、Sybase SQL Anywhereランタイムがインストールされます。

## Windows NT 4、2000またはXP上のインストール

Windows NT 4、2000またはXPを使用している場合、コンピュータにソフトウェアをインストールするには管理者権限が必要になります。管理者権限でログインしないと、インストールプログラムはレジストリを変更できません。

## Windows NT 4 Terminal Server上にグラフィカルモードでインストールする (Citrix Frame Serverの有無に関わらない)

AssetCenterをグラフィカルモードでインストールするには、

- 1 Windowsのコントロールパネルを開きます。
- 2 **[アプリケーションの追加と削除]** をクリックします。
- 3 AssetCenterのインストール方法に応じて (CD-ROMまたはネットワーク) Windowsの指示に従います。

## Windows NT 4 Terminal Server上にコマンドラインでインストール場合の前提条件 (Citrix Frame Serverの有無に関わらない)

コマンドラインでインストールプログラムを実行する前に以下の操作を行う必要があります。

- 1 DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 2 以下のコマンドを実行します。

```
change user /install
```

このコマンドを実行しないと、Crystal Reportsレポートを印刷できるのは、Crystal Reportsランタイムのインストール時に接続しているユーザのみになります。

このコマンドを実行しないと、レポートを印刷しようとするユーザには次のエラーメッセージが表示されます。

```
PDSODBC.DLL cannot be found
```

Terminal Services付Windows 2000 Advanced Serverを使用する場合は、このコマンドラインを実行する必要はありません。

## クライアント/サーバ型インストール

クライアント/サーバ型でAssetCenterをインストールする場合は、以下の手順に従います。

- 1 DBMSをサーバとクライアントコンピュータにインストールします。
- 2 クライアントとサーバ間の通信をテストします。
- 3 AssetCenterを以下の方法でインストールします。
  - AssetCenterを各クライアントコンピュータにインストールします。
  - AssetCenterをサーバにネットワークインストールし、AssetCenterを各クライアントコンピュータにネットワークインストールします。

## インストールされるファイルのリスト

インストールされるファイルのリストとインストール先フォルダを確認するためには、AssetCenterのインストール先フォルダにある「setup.inf」ファイルと、インストール用CD-ROMのdisk1フォルダを参照します。どのファイルがインストールされているかを調べるには「FILENAME=」を検索します。また、インストーラはレジストリを変更します。変更事項は「setup.inf」ファイル内に記録されます。

### 注意:

「setup.inf」ファイルはインストールプログラムに使用されます。このため読みにくいファイルになっていますが、有用な情報を検索する際には便利です。

## クライアントコンピュータへ迅速にインストールする

「amdb.ini」ファイルには、[ファイル/データベース接続の管理]メニューにある接続のリストが含まれています。

これらのオプションを各クライアントコンピュータのGUIで定義する代わりに、一度オプションを定義した後「amdb.ini」ファイルを各クライアントコンピュータにコピーします。

## 手動インストール (GUI)

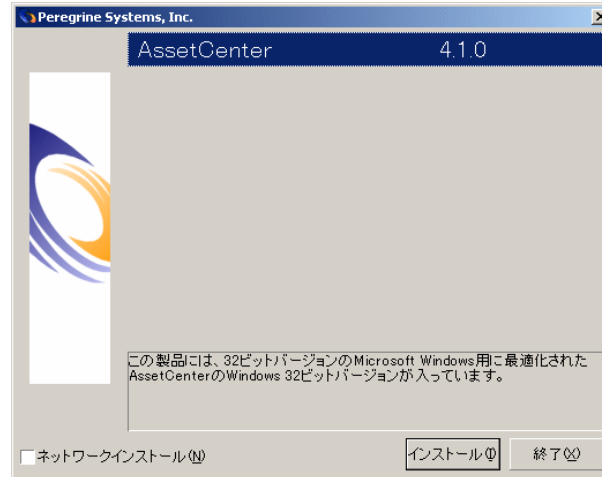
- 1 Windowsを起動します。
- 2 インストール用CD-ROMを挿入します。

 **注意:**

AssetCenterをフロッピーディスクでインストールすることはできません。CD-ROMの内容をフォルダの階層構造を変更せずにハードディスクにコピーし、ハードディスクからインストールを実行することは可能です。

- 3 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
  - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
  - 2 CD-ROMを選択します。
  - 3 CD-ROMのルートを選択します。
  - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
- 4 インストールプログラムの指示に従います (以下参照)。

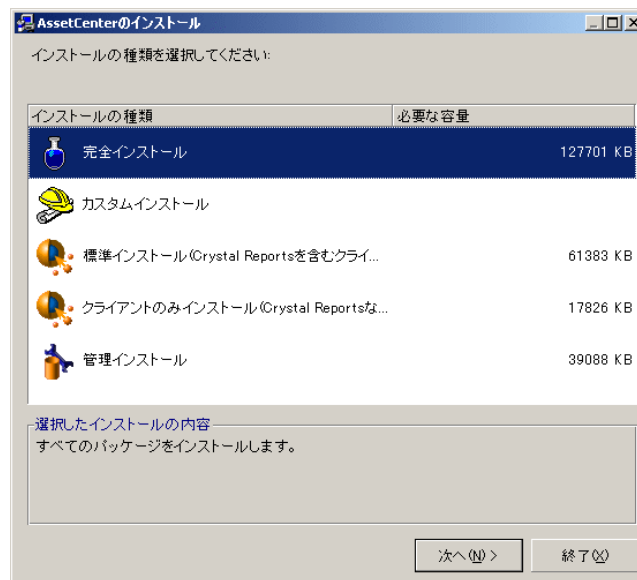
### インストール時に最初に表示される画面



オプション [ AssetCenter ] を選択します。  
サーバ経由でAssetCenterをインストールする場合は [ ネットワークインストール ] チェックボックスをオンにします。

このオプションを選択する場合は、本マニュアルの「Windowsでのインストール」章の「ネットワークインストール (GUI)」の節を参照してください。

## 第2の画面ではリストからインストールのタイプを選択する



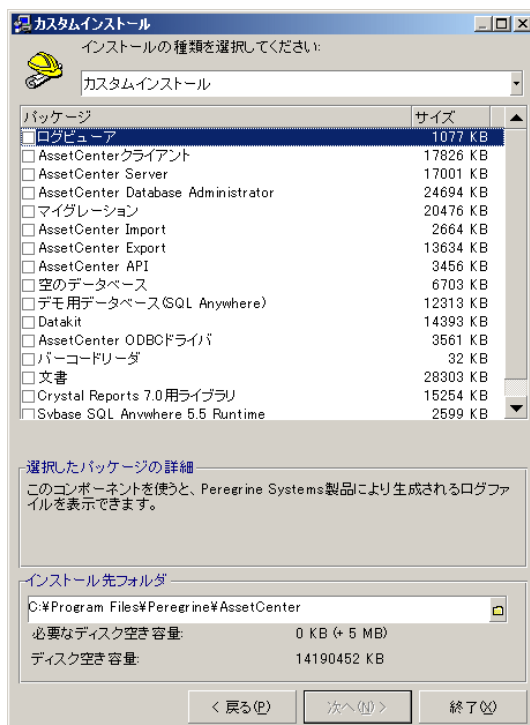
インストールの種類を選択します。

### 注意:

AssetCenterの完全インストールを実行すると、膨大な量のファイルが作成され、AssetCenter以外のソフトウェアもインストールされます。このため、全部をインストールする必要があるかどうか再確認することをお奨めします。

## [カスタムインストール] を選択する場合

以下のウィンドウが表示されます。



インストールするコンポーネントとインストール先フォルダを選択します。

## ネットワークインストール (GUI)

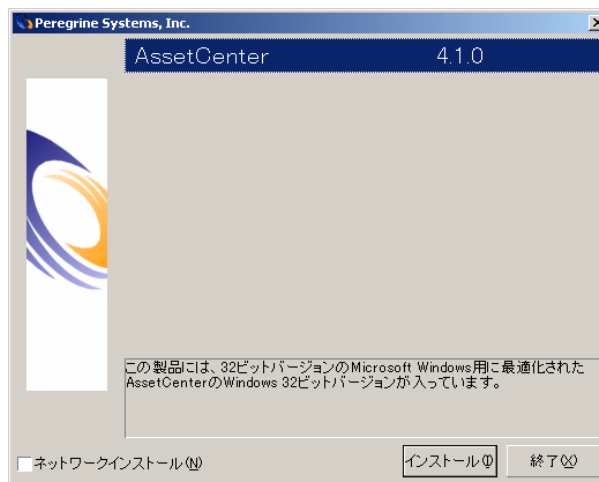
AssetCenterを最小限のファイルでクライアントコンピュータにインストールする場合は、AssetCenterをまずサーバにインストールしてから、クライアントに「最小」のインストールを実行します。

AssetCenterのネットワークインストールをサーバ上に行うと、AssetCenterの機能に必要な全ファイルがクライアントにコピーされます。しかしAssetCenterを実際に使用するには、クライアントコンピュータにネットワークインストールを実行する必要があります。

サーバへのネットワークインストール中、インストーラはファイルのコピーのみを実行します。パス、設定ファイル、およびプログラムグループは作成 / 変更されません。

## サーバへのインストール

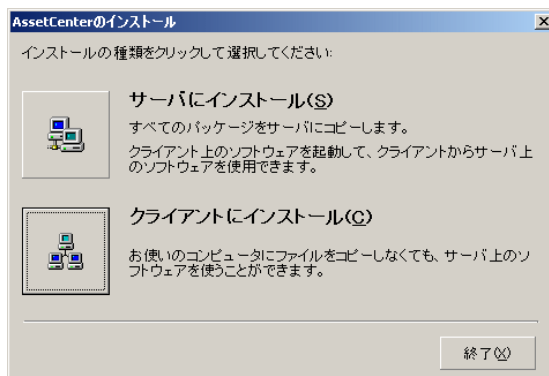
- 1 AssetCenterのインストール用CD-ROMを挿入します。
- 2 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
  - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
  - 2 CD-ROMを選択します。
  - 3 CD-ROMのルートを選択します。
  - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
- 3 次の画面が表示されたら、



- 1 [ AssetCenter ] を選択します。
- 2 [ ネットワークインストール ] をオンにします。
- 3 [ インストール ] をクリックします。

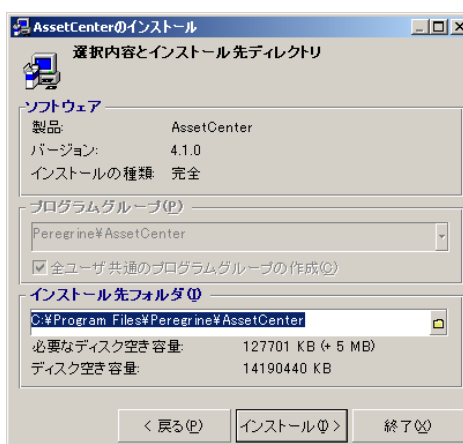


- 4 次の画面が表示されたら、



**[サーバにインストール]** をクリックします。

- 5 次の画面が表示されたら、

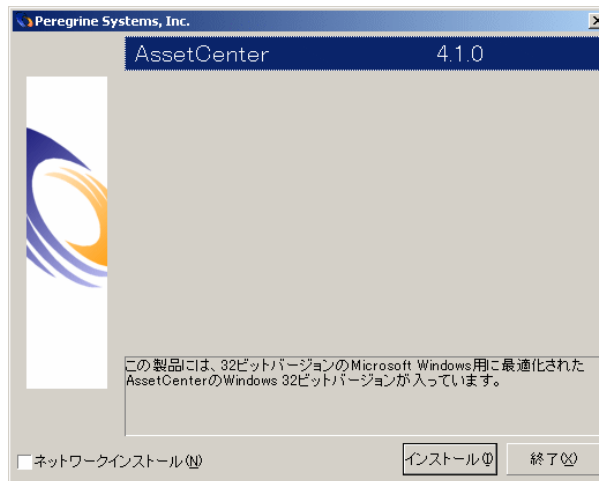


- 1 全クライアントコンピュータから読み取りアクセスできるインストール先フォルダを指定します。
- 2 **[インストール]** をクリックします。

## クライアントへのインストール

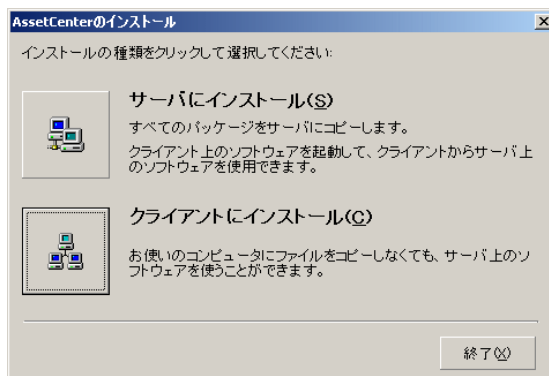
- 1 AssetCenterインストール用CD-ROMを挿入します。

- 2 CD-ROMを挿入してもインストールプログラムのウィンドウが自動的に表示されない場合は、
  - 1 Windowsエクスプローラを実行します。
  - 2 CD-ROMを選択します。
  - 3 CD-ROMのルートを選択します。
  - 4 「autorun.exe」プログラムを実行します。
- 3 次の画面が表示されたら、



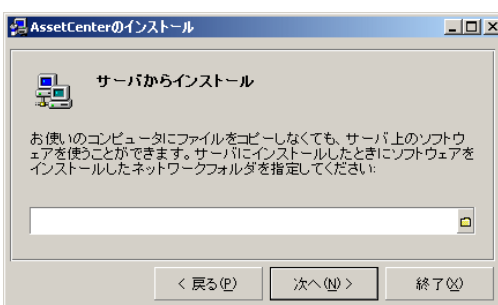
- 1 [ AssetCenter ] を選択します。
- 2 [ ネットワークインストール ] を選択します。
- 3 [ インストール ] をクリックします。

- 4 次の画面が表示されたら、



**[クライアントにインストール]** を選択します。

- 5 次の画面が表示されたら、



- 1 どのネットワークフォルダにAssetCenterがインストールされたかを指定します。
  - 2 **[次へ]** をクリックします。
- 6 インストール方法はGUIを使った手動のインストールと同様です。必要なファイルのみがクライアントコンピュータに再びコピーされます。インストールプログラムは必要な設定ファイル全てを変更し、アイコンやプログラムグループなどを作成します。
- 詳細については、本マニュアルの「Windowsでのインストール」の章、「**手動インストール (GUI)**」の節を参照してください。

## 自動インストール (コマンドライン)

AssetCenterをグラフィカルインタフェースを使用せずにインストールすることも可能です。

自動インストールを実行するには、テキストエディタでインストールスクリプトを作成しファイルに保存します。ファイル名は自由ですが拡張子「.ans」を使用します。

ファイルのフォーマットは以下の通りです。

```
[Install]
Path = <valeur>
Group = <valeur>
UserGroup= <valeur>
Type = <valeur>
Packages = <valeur>
ReplaceDLL = <valeur>
Reboot = <valeur>
OverwriteReadOnlyFile = <valeur>
DeleteReadOnlyFile = <valeur>
```

### インストールスクリプトで使用するシンタックス

変数	意味	選択値	デフォルト値
Path ( 注意事項1参照 )	AssetCenterのインストール先フォルダの完全なパス		C:\Program Files\Peregrine\AssetCenter
Group	インストールグループ		Peregrine /AssetCenter
UserGroup	Windows NT、2000とXPの場合のみ使用 プログラムグループにアクセスできるユーザを指定できません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>0: すべてのユーザがプログラムグループにアクセスできます。</li> <li>1: プログラムグループのユーザのみがアクセスできます。</li> </ul>	0

変数	意味	選択値	デフォルト値
Type	インストールの種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>• maximal : 完全インストール</li> <li>• minimal : 最小インストール</li> <li>• custom : カスタムインストール</li> </ul>	maximal
Packages ( 注意事項2参照 )	インストールするパッケージの一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>• adbc</li> <li>• admin</li> <li>• amdemo</li> <li>• amsg</li> <li>• amsrv</li> <li>• api41</li> <li>• cr70</li> <li>• datakit</li> <li>• emptydb</li> <li>• doc</li> <li>• exe</li> <li>• export</li> <li>• import</li> <li>• rtany</li> <li>• scan</li> </ul>	
ReplaceDll ( 注意事項3参照 )	既にインストールされているDLLを別の言語のDLLで上書きするかどうかを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• y : 上書きする</li> <li>• n : 上書きしない</li> </ul>	n
Reboot	インストール後にコンピュータを再起動しません ( 確認メッセージの表示なし )。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• y : 再起動する</li> <li>• n : 再起動しない</li> </ul>	n
OverwriteReadOnlyFile	読み取り専用ファイルが既に存在する場合に、これに上書きします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• y : 上書きする</li> <li>• n : 上書きしない</li> </ul>	n
DeleteReadOnlyFile	読み取り専用ファイルが既に存在する場合、アンインストールして削除します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• y : 削除する</li> <li>• n : 削除しない</li> </ul>	n

## インストールスクリプトの変数に関する注意事項

- 注意事項1：Path変数

インストールプログラムが選択したインストール先フォルダがディスク上に既に存在する場合、インストールプログラムはそのフォルダの中にサブフォルダを作成します。このサブフォルダには、AssetCenterのバージョン番号または任意の英数字から成る名前が付きます。

- 注意事項2：Packages変数

Packages変数を使うのは、Type変数の値にCustomを指定する場合だけです。パッケージ名を続けて入力する場合は、次の例のように、コンマとスペースで区切ります。

### 例

```
Packages=exe, amsrv, export
```

Packages変数がとる値に関する情報は、次の通りです。

- adbc：ODBCドライバ
- admin：管理用ツール
- amdemo：SQL Anywhereデモ用データベース
- amsg：マイグレーションプログラムとファイル
- amsrv：AssetCenter Serverモニタプログラム
- api41：AssetCenter API
- cr70：Crystal Reportsランタイム
- datakit：データベースにインポート可能なサンプルデータと専門分野データ
- doc：「.pdf」、「.chm」、「.htm」、「.txt」ファイル
- emptydb：空のデータベース
- exe：AssetCenterのコアモジュール
- export：AssetCenter Export（グラフィックバージョンとオンラインバージョン）
- img：データベースで使用される画像とアイコン
- import：AssetCenter Import（オンラインバージョン）
- rtany：Sybase SQL Anywhereランタイム
- scan：バーコードによる棚卸モジュール

### 注意:

SQL Anywhereの検出に関する注意：インストールプログラムは、「dbeng50.exe」を「PATH」フォルダ内で見つけると、SQL Anywhereの完全バージョンが既にインストールされているものと見なします。

- 注意事項3：ReplaceDll変数  
インストールプログラムが、既存のDLLファイルをコピーする場合は、次のように処理されます。
  - DLLファイルの言語が同じである場合、インストールプログラムのDLLバージョンの方が新しければ、インストールプログラムはファイルを自動的に上書きします。
  - DLLの言語が異なる場合、インストールプログラムはDLLを上書きするかどうかを確認するメッセージを表示します。
 ReplaceDll変数のオプションでは、インストールプログラムが異なる言語のDLLを検出した場合の処理方法を選択できます。「n」を選択すると、インストールプログラムはDLLを上書きしません。「y」を選択すると、確認メッセージを表示せずにDLLを上書きします。

## デフォルトのインストールスクリプト

インストール用CD-ROMのDisk1フォルダの中には、次の3つのインストールスクリプト例が入っています。

- Custom.ans
- Maximal.ans
- Minimal.ans

## 自動インストールを実行する

自動インストールを行うには、「Setup1.exe」コマンドラインインストールプログラムのフォルダ内に、スクリプトファイル「<script>.ans」を入力します。インストールを実行する前に、インストール用CD-ROMをハードディスクにコピーしておくか、またはサーバにAssetCenterをネットワークインストールしておいてください。

インストール先のコンピュータで次のコマンドを入力すると、インストールが開始します。

```
setup1.exe -a:<script>.ans
```

## サーバで自動ネットワークインストールを実行する

インストールスクリプト「server.ans」（スクリプト名はユーザが定義）は、以下の2行のみで作成します。

```
[Install]
Path=<サーバ上のインストール先フォルダの完全なパス>
```

次の様にコマンドを入力し、インストールを実行します。

```
setupl -a:serveur.ans -ns
```

## クライアントで自動ネットワークインストールを実行する

インストールスクリプト「client.ans」（スクリプト名はユーザが定義）は、必ず以下の2行で開始します。

```
[Install]
```

```
ServerPath=<サーバ上のインストール先フォルダの完全なパス>
```

3行目以下は、通常の自動インストールと同じです（前節を参照）。

インストール先フォルダのパス名は、次のようになります。

```
//Serv/C/Acinst
```

次のようにコマンドを入力し、インストールを実行します。

```
setupl -a:client.ans -nc
```

## クライアントで自動アンインストールを実行する

次のようにコマンドを入力し、アンインストールを実行します。

```
setupl -u
```

コマンドラインからアンインストールを実行する場合、部分的にアンインストールすることはできません。

インストールスクリプトを使用した場合は、アンインストール時にも同じスクリプトを使用します。必要に応じて、「DeleteReadOnlyFile」変数の値を変更します。

アンインストールのコマンドは、次のようになります。

```
setupl.exe -a:<script>.ans -u
```

## クライアントのアップグレード

2回に分けて操作をすると、コマンドラインでのインストールを実行できます。

- 1 先ず、1番目の命令ファイル（バッチ）でコンピュータをアンインストールします。
- 2 次に、もう1つの命令ファイルでコンピュータをインストールします。



## 手動アンインストール (GUI)

AssetCenterを完全にアンインストールするには、Windowsのコントロールパネルの [ **アプリケーションの追加と削除** ] を使用します。

アンインストールプログラムは以下の操作を実行します。

- インストールされた全ファイルとプログラムグループを削除します。
- AssetCenterのインストールプログラムが加えた変更事項を、設定ファイルから削除します。
- レジストリを更新します。



# 4 | Windowsでの設定

AssetCenterプログラムをインストールした後、使用するモジュールやAssetCenterに統合するモジュールに応じて補足操作を実行する必要があります。本章ではこれらの補足操作について説明します。

## Oracle DLL

Oracleアクセス用のDLLには様々なバージョンがあります。AssetCenterはサポートされているバージョンを動的に読み込みます。AssetCenterはDLLをバージョン番号の高い順から検索します。

- 1 oraclient9.dll
- 2 oraclient8.dll
- 3 ora805.dll
- 4 ora804.dll
- 5 ora803.dll
- 6 ora73.dll

「am.ini」ファイルに以下のような項目を追加すれば、特定のDLLファイルを読み込むこともできます。

```
[DLL]
orcl = <xxx>.dll
```

 ヒント:

「am.ini」は、Windowsのインストール先ファイル内にあります。

## AssetCenter Import

データベースのインポートにODBCを使用する場合、ODBCのバージョン2.0または3.0をレベル2のドライバと共にインストールする必要があります。

Microsoft Access 2.0、95と97、ExcelおよびDbase付属のドライバをテストした結果、正常に作動することが確認されています。

## メッセージシステム

### Windowsでサポートされているメッセージシステムの標準規格

- VIM
- Extended MAPI
- SMTP

 注意:

Simple MAPIはサポートされていません。

### 外部メッセージシステムのインストール

AssetCenterで外部メッセージシステムを正常に機能させるには、次の条件が必要です。

メッセージシステムの標準規格	必要な条件
VIM	システムのPATH環境変数に、「vim32.dll」ファイルが入っているフォルダのパスが指定されている必要があります。 例：Lotus NotesのDLLファイルのパスは、Notesにより「PATH」フォルダではなく「Notes」フォルダにインストールされています。
SMTP	TCP/IPレイヤを必ずインストールします。 SMTPメッセージシステムを正しくインストールした場合には注意します。

## AssetCenterから外部メッセージシステムにメッセージを送信するための設定

メッセージシステムの機能を最大限に利用するには、次の作業を行う必要があります。

必要な作業	参考マニュアル
管理者およびユーザのメッセージ用アドレスを指定する。	『データベース管理』マニュアルの「メッセージ」の章、「AssetCenterでメッセージシステムを指定する」の節
調達、ヘルプデスク、アラームなどで使う「メッセージ」タイプのアクションを作成する。	『AssetCenterの高度な使い方』、「アクション」の章、「アクションを作成する」の節、「[メッセージ]タブページに入力する」
調達、ヘルプデスク、アラームなどにリンクされているメッセージを送信する AssetCenter Serverを設定する。	『データベース管理』マニュアルの「AssetCenter Server」の章
AssetCenter Serverを実行する。	『データベース管理』マニュアルの「AssetCenter Server」の章
トラブルシューティング	『データベース管理』マニュアルの「メッセージ」の章、「一般的な接続エラー」の節

メッセージシステムの使用方法については、以下の章を参照にしてください。

- 『データベース管理』マニュアルの「メッセージ」の章
- 『AssetCenterの高度な使い方』マニュアルの「メッセージ」の章

## AssetCenter Server

AssetCenter ServerはAssetCenterクライアントから独立したプログラムです。AssetCenterの調達、在庫、履歴、またはリースのドメインでトリガされるアラーム、メッセージやアクションをモニタしたり、特定のフィールドの値を計算したりします。

これらの処理が正しく行われるために、ユーザは先ず、少なくとも1台のコンピュータ上でAssetCenter Serverを常時稼働し、次にAssetCenter Serverを本番データベースに接続する必要があります。

AssetCenter Serverの詳細については、『**データベース管理**』マニュアルの「AssetCenter Server」の章を参照してください。

AssetCenter ServerのモジュールはConnect-ItとConnect-Itのコネクタを使用し、以下のようなデータの自動インポートを実行します。

- AssetCenterと共にインストールされるInfraTools Desktop Discoveryスキャナで実行されるスキャン（棚卸）
- 外部アプリケーションから来るデータのインポート

このようなモジュールを使用する場合はConnect-Itをインストールします。

Connect-Itの動作環境、またはインストール方法についてはConnect-Itのマニュアルを参照してください。

AssetCenter ServerとConnect-Itの統合方法については、AssetCenterの『**データベース管理**』マニュアルの「AssetCenter Server」章の「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

### WindowsでAssetCenter Serverを導入する

このプログラムにアクセスするには最低1台にWindows NT4、2000またはXP Professionnelをインストールしなければなりません。

AssetCenter Serverは次の方法で起動できるようにインストールされます。

- Windowsの【**スタート**】メニューのショートカットから手動で起動
- サービスとして自動的に起動

---

#### ヒント:

AssetCenter Serverを、サービスとして起動させることをお奨めします。





---

 **警告:**

AssetCenter Serverサービスの接続先データベースのDBMSクライアントレイヤをインストールした後、AssetCenter Serverがインストールされたコンピュータを、再起動しなければなりません。これは、Windowsのサービスコントロールマネージャが、コンピュータの起動時に環境変数PATHを読み取るためです。最新のPATH環境変数は、AssetCenterServerがDBMSのDLLを検索するために必要になっています。これは特にSQL Anywhereランタイムをインストールし、AssetCenter Serverをデモ用データベース（SQL Anywhereを使用）上で実行する場合に注意が必要です。

デフォルトでは、このプログラムのサービスが自動的に起動するように設定されていますが、これは変更可能です。

コントロールパネルの【サービス】を使うと、コンピュータで使用可能なWindowsサービスを開始、停止、設定できます。

- Windows NT 4の場合
  - **【開始】** ボタン：まだ開始していないサービスを開始します。AssetCenter Serverの場合は、**【スタートアップパラメータ】** フィールドの値を変更しないことをお奨めします。
  - **【停止】** ボタン：稼働中のサービスを停止します。
  - **【スタートアップ】** ボタン：このボタンを使うと、サービスを次のように設定できるので便利です。
    - **【自動】**：Windowsの起動時に、サービスも自動的に起動します。
    - **【手動】**：サービスの**【開始】** ボタンをクリックして、NT4サービスを起動する必要があります。
    - **【無効】**：サービスは起動しません。
- Windows 2000の場合
  -  ボタン：停止しているサービスを開始します。
  -  ボタン：サービスを停止します。
  -  ボタン：サービスを再起動します。
  -  ボタン：サービスを中断します。

AssetCenter Serverサービスを、Windowsの自動モードで起動するには、

- 1 サービスのウィンドウからAssetCenter Serverサービスを選択します。
- 2 右クリックし、ポップアップメニューで**【プロパティ】**を選択します。
- 3 **【スタートアップの種類】** フィールドを**【自動】**にします。

 **注意:**

AssetCenter Serverの場合は、一度正常に動作することを確認したら、スタートアップモードを【自動】に設定して、Windowsの起動時に自動的に開始させることをお奨めします。

 **注意:**

サービスは、デフォルトでWindowsのシステムアカウントを使用します。AssetCenter Serverがデータベースに接続できない場合は、【スタートアップ】ボタンをクリックして、データベースにアクセスできるアカウントを使うようにサービスを設定します。

## Crystal Reports

Crystal Reportsレポートのインストール、設定と使用については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章を参照してください。

## InfraTools Remote Controlを統合する

 **警告:**

AssetCenterとInfraTools Remote Controlの統合は、Windowsでのみ可能です。

AssetCenterにはInfraTools Remote Controlの完全版とマニュアルが付属していません。

以下の場合にInfraTools Remote Controlが必要になります。

- リモートコンピュータをAssetCenterから直接コントロールする場合。以下の要素をインストールします。
  - マネージャモジュールを、コントロール操作を実行するコンピュータにインストールします。
  - エージェントモジュールをリモートコンピュータにインストールします。
- リモートコンピュータのスキャンをAssetCenterから直接実行する場合。以下の要素をインストールします。
  - マネージャモジュールをスキャンを実行するコンピュータにインストールします。



- エージェントモジュールをリモートコンピュータにインストールします。
- Connect-ItとAssetCenter Serverを使って、複数のリモートコンピュータ全部のスキャンを実行する場合は、SDK InfraTools Remote ControlをConnect-ItとAssetCenter Serverコンピュータにインストールします。

InfraTools Remote Controlの動作環境とインストール方法については、InfraTools Remote Controlのマニュアルを参照してください。

InfraTools Remote ControlとAssetCenterの統合方法については、AssetCenterの『ポートフォリオ』マニュアルの「ITポートフォリオ」の章、「リモートコントロール」の節を参照してください。

## Connect-Itを統合する

AssetCenterにはConnect-It完全版、Connect-Itの一部のコネクタと、マニュアルが付属しています。

### 警告:

AssetCenterのインストール用CD-ROMで【Connect-Itの更新】コンポーネントをインストールする必要があります。

## 必要なConnect-Itのバージョン

Connect-ItとAssetCenterを統合するには、AssetCenterインストール用CD-ROMに提供されているConnect-Itのバージョン、またはそれ以降が必要です。

## Connect-Itの用途

AssetCenter Serverが自動的に起動する一部のアクションでは、Connect-Itが必要になります。例えば、

- AssetCenterデータベースへの接続時にNTセキュリティを使用するために、データベースにNTユーザを追加する場合

### 警告:

AssetCenter ServerのWindowsバージョンが必要です。

- 複数のリモートコンピュータの自動スキャンを実行する場合

### 警告:

AssetCenter ServerのWindowsバージョンが必要です。

Connect-Itの動作環境、またはインストール方法についてはConnect-Itのマニュアルを参照してください。

AssetCenter ServerとConnect-Itの統合方法については、AssetCenterの『データベース管理』マニュアルの「AssetCenter Server」章の「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」を参照してください。

## リモートコンピュータのスキャン

AssetCenterでは様々な方法でリモートコンピュータをスキャンできます。

- AssetCenterデータベースのコンピュータの詳細画面から、コンピュータのスキャンを起動し、スキャン結果を表示することができます。

この種のスキャンを実行するには、InfraTools Remote Control (AssetCenterのインストール用CD-ROMに提供されているバージョンまたはそれ以降)をインストールし、パラメータを設定する必要があります。

詳細は、AssetCenterの『ポートフォリオ』マニュアルの「ITポートフォリオの管理」の章、「コンピュータのスキャン」の節に説明されています。

- AssetCenterデータベースのコンピュータ全体の自動スキャンは、AssetCenter Serverから定期的に起動されます。

この種のスキャンを実行するには、InfraTools Remote Control (AssetCenterのインストール用CD-ROMに提供されているバージョンまたはそれ以降)、Connect-It (AssetCenterインストール用CD-ROMに提供されているConnect-Itのバージョンまたはそれ以降)とAssetCenter Serverをインストールする必要があります。

スキャン方法については、AssetCenterの『データベース管理』マニュアルの「AssetCenter Server」章の「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」節の「[スキャナをコンピュータに送信 (SendScan)] モジュール」を参照してください。

## Knowlix

Knowlixの動作環境とインストール方法については、Knowlixのマニュアルを参照してください。

KnowlixとAssetCenterの統合方法については、AssetCenterの『はじめに』マニュアルの「Knowlix」の章を参照してください。

# 5 | 性能の最適化

## 概要

AssetCenterの性能は様々な要因に左右されます。

- DBMSの性能
- DBMSのパラメータ設定  
この操作は非常に重要なため、実行するにはデータベース管理の知識と経験が必要になります。DBMSのパラメータ設定によってはAssetCenterの性能が倍増することもあります。特に、データベースサーバに割り当てるRAM容量に注意を払うことが大切です。
- DBMSの機能（AssetCenterとの運用性）とミドルウェアの機能（複数の行を1つのネットワークパケットとして取得するなどの高度な機能のサポート）
- プロセッサの速度
- サーバのハードウェアの性能：RAM、ディスクサブシステム（ディスク、コントローラボード、これら要素のシステム管理、プロセッサ数など）、テーブルおよびインデックス専用の記憶装置
- クライアントのハードウェアの性能：RAM、グラフィック処理の性能（グラフィックアクセラレータボードの使用と必要最低限RAMの倍増を推奨）。
- ネットワークの速度と待ち時間（応答時間を改善するには、ネットワーク速度を上げて待ち時間を短縮します。）
- データベースに格納されているレコード数

## 低速ネットワーク、高速ネットワークと広域ネットワーク (WAN) の調整

詳細については、『データベース管理』マニュアルの「WANネットワークにおけるAssetCenterの最適化」の章を参照してください。

## 外部アプリケーションを使ってAssetCenterデータベースのレコードをロックする

外部ツールによっては、レコードを参照している最中でもレコードをロックすることがあります。

これは、AssetCenterの性能に悪影響を及ぼします。レコードは、なるべくロックしないようにしてください。

例えば、Sybase SQL ServerやMicrosoft SQL Serverでは、**ダーティリード** (dirty read) でアクセスする方が適しています。



